

全体総括

○計画期間；平成20年7月～平成26年3月（5年9ヶ月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

基本計画においては、基本理念を「都市経営－再生へのマネジメント」とし、5つの基本的な方針と2つの活性化の目標「人々の交流によるにぎわいの回復」「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」を定め、各事業に取り組んだ。

飯田市民の心のシンボルであるりんご並木とその周辺では、景観的にも内容的にも魅力に富む商業施設等を整備した。全30団体に及ぶ多様な主体の創意工夫により、毎月1回りんご並木歩行者天国を開催した。さらには、扇町公園内における動物園の再整備においては動物の生態展示を行い、来場者が大幅に増加した。これらの事業展開によって、各事業実施拠点では人々が訪れる機会が増加し、中心市街地に賑わいが見られるようになった。

まちなか健康福祉拠点整備事業においても、福祉関連サービスへの段階的な取り組みを行い、高齢者支援に加え、市民のそれぞれのライフスタイルに合わせた健康増進策を行うことができたことにより、大幅な利用者の拡大につながっている。

環境に配慮したまちづくり事業では、環境共生型モデル住宅「りんご並木のエコハウス」を整備。地域産材使用など、環境配慮に特化したこの施設に、見学者をはじめ多くの来場者が訪れている。また、飯田駅ほか中心市街地の賑わい拠点を結び回遊性を促すため、電気小型バスを運行した。このような事業の取り組みは、中心市街地が飯田市における環境面での先導的な役割を果たすことになった。

ここ5年余りの間に中心市街地を大切に思う市民の比率は高まっており、これはハード・ソフトの様々な取組による成果があらわれた結果であり、今後の活性化への事業継続を望むものと理解できることから、これまで以上に市民、民間事業者、行政等が連携、協働したまちづくりを推進していく必要がある。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

基本計画に位置づけた全 54 事業のうち 47 事業について着手済み、残る 7 事業については未着手である。

設定した目標値に達することができなかった指標もあるが、「1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）」のとおり、各商業施設整備や多様な主体による創意工夫あふれるイベントを継続実施したことにより、中心市街地に人々が訪れる機会が増加し、ある程度の賑わいが創出されたことは、中心市街地の活性化に取り組んだことの一定の成果であると考えます。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（飯田市としての見解）

中心市街地活性化事業の推進にあたっては行政のみならず、地元事業者や「いいだ応援ネットアイデア」などを始めとするNPO団体、平成 10 年に地元企業・市民・行政により設立されたまちづくり会社「株式会社飯田まちづくりカンパニー」、「NPO 南信州おひさま進歩」（以上都市再生推進法人）など、多様な主体との協働した取り組みが、まちなみの賑わいに繋がった。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

飯田市民の誇りであるりんご並木を活かした商業施設等整備、扇町公園内動物園等の整備効果により、中心市街地に訪れる人々が増加したことは一定の事業成果の現れである。

今後も、リニア中央新幹線飯田駅設置を見据え、中心市街地に凝縮されている豊かな文化をこれまで以上にしっかりと守り、継承し、活用し、新たな交流や回遊を促す施設整備やソフト事業の展開が必要である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

中心市街地活性化基本計画を策定する上で、市民の中心市街地についての利用実態およびニーズを把握し、今後の活性化・まちづくりのあり方について聞くことによって、市民からみた中心市街地のとるべき方策の方向性を検討する基礎資料とするため、アンケートを実施した。また、実施前後のアンケート結果との比較をすることで、市民意識の変化について分析した。

1 調査方法

① 調査対象

市域全域の20歳以上70歳未満を対象とし住民基本台帳登録者により2,000人を無作為抽出。

② 調査方法

郵送により配布・回収

③ 調査期間

平成25年1月15日～1月28日（回収締切日）

2 調査項目

① 中心市街地の活性化について

3 回収率等

① 回収状況

2,000人のうち845人より回収

② 回収率

約42.0%

4 調査結果

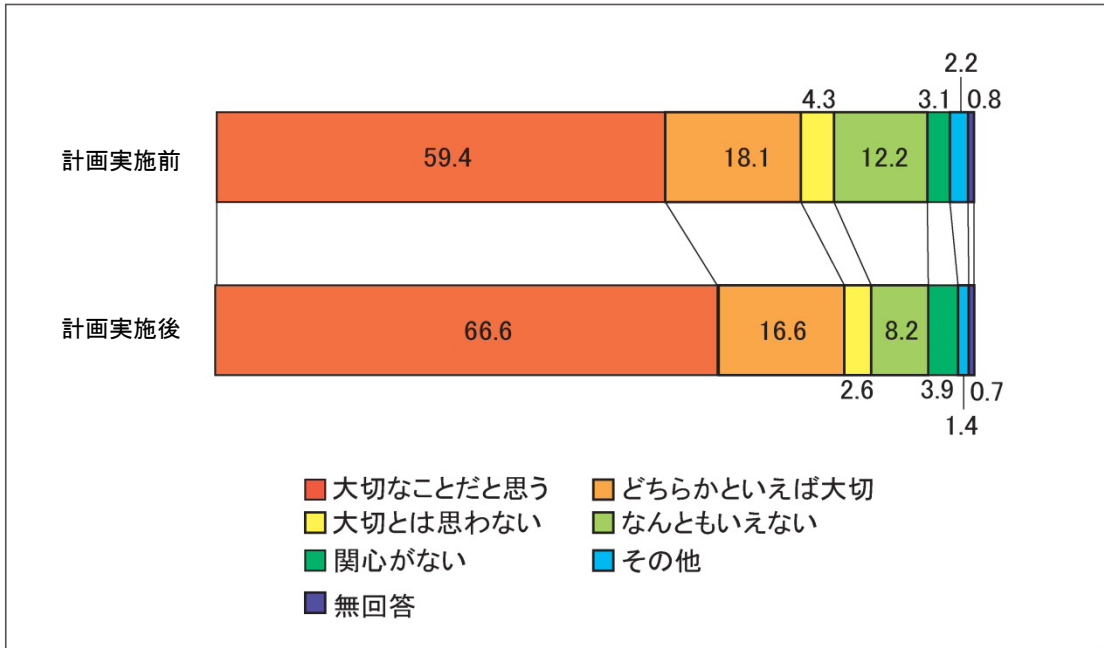
アンケート結果から、ここ5年余りの間に中心市街地を大切に思う市民の比率が高まり、中心市街地に求めるものに変化がみられることが明らかになった。

1. 中心市街地の活性化について

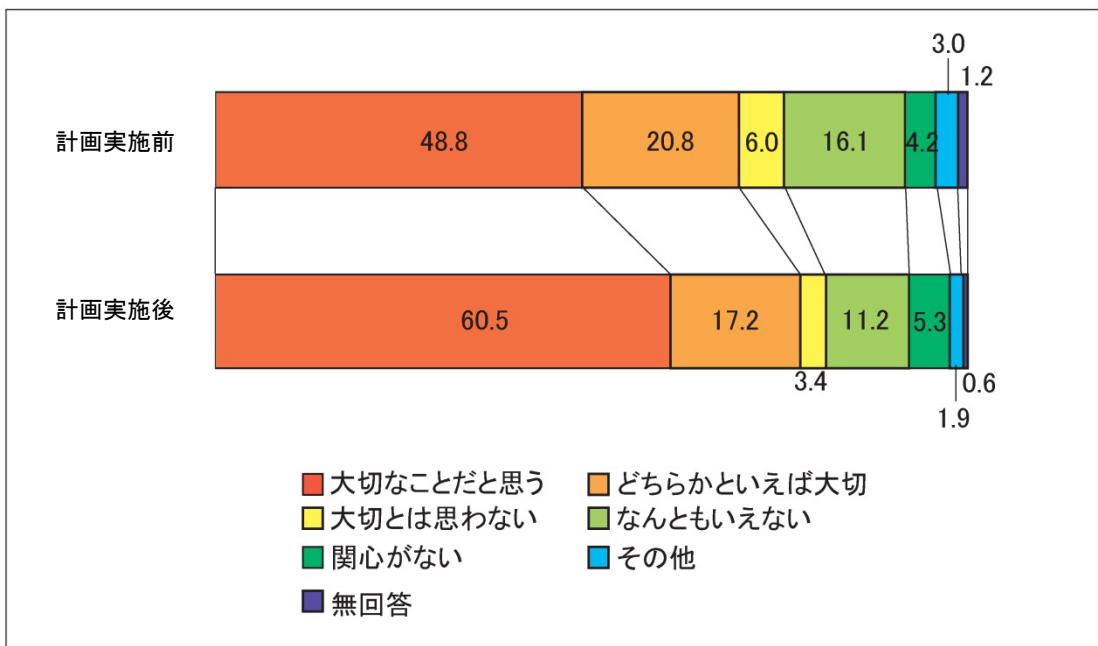
「大切なことだと思う」が66.6%、次いで「どちらかといえば大切」が16.6%となっており、中心市街地の活性化を大切だと感じている人が8割を超えている。また、計画実施前に比べて中心市街地の活性化を大切だと感じている人が5.7%増加している。

「大切とは思わない」については2.6%とわずかであり、計画実施前に比べて1.7%の減少が見られることについては、計画における中心市街地活性化への市民の評価と捉えることができる。

中心市街地の活性化の大切さ(全体)



中心市街地の活性化の大切さ(中心市街地外市民)



6. 今後の取組

近年の都市の郊外拡散、人口構造や生活スタイルの変化、個人消費ニーズの多様化など、複雑化した社会・経済の変化等により、中心市街地に求められるものもまた変化してきている。このような時代背景において、まず求められるのは、飯田らしい個性や魅力に富む都市を形成することである。そのためには、地域への誇りや地域で暮らすことの喜びを醸成し、地域資源の掘り起しと利活用によって地域の魅力のさらなる向上が課題とされる。

商業・観光等の集客・交流機能の視点からは、集客エリアが中心商店街から郊外型商業施設にシフトし、また、ネット販売が台頭してきた今日、特徴ある店づくりや質の高いサービス、憩いや楽しみの環境を整えることが重要である。そのためには店主や商品自体が地域の魅力発信の源となることにより商店街の再生を図ることや、既存の商業や観光に捉われることなく、起業支援や空店舗活用の仕組みづくりにより新たな産業や人材の誘導を図ることが課題とされる。

また、少子化、高齢化と人口減少、コミュニティ機能の低下が中心市街地においても顕著にみられる中、まちの定住人口の増加策と、その生活基盤となる健康・医療・福祉の複合的施策が必要とされている。その実現のためには、子育てしやすい環境整備、高齢者が安心して生活するための生活支援機能、若い人たちのニーズにも対応した居住環境整備や当地域にふさわしい居住のあり方を追究、さらには自己実現の場を充足させるためのコミュニティ機能を高めていくことが課題とされる。

さらに、モータリゼーションの進展に対応したアクセスしやすい交通体系の整備等については必要不可欠であるものの、鉄道・バスなど公共交通の利用促進は重要な課題であり、とりわけリニア中央新幹線開通を見据える中では、リニア駅と中心市街地とのアクセス強化をはじめとする総合的な交通戦略に基づく事業展開が課題とされる。

一方、中心市街地のより一層の活性化が求められており、商業機能や観光・アミューズメント機能の強化、高齢者の健康づくりや子育て支援、文化芸術等、そのニーズは多岐にわたっており、中心市街地における都市機能のより一層の多様化、複合化が課題となる。

これらの地域課題を地域住民自らが考え、様々な取り組みを発意、計画し、実施していくことが、これからのまちづくりにとって極めて重要な課題である。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
目標① 人々の交流による にぎわいの回復	歩行者・自転車通 行量 (人/日)	7,000人	9,000人	7,476人	H25年10月	B
目標② 環境に配慮し、安心安 全な暮らしの実現	都市福祉施設の 利用者数(人/年)	77,000人	93,000人	117,009人	H26年3月	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

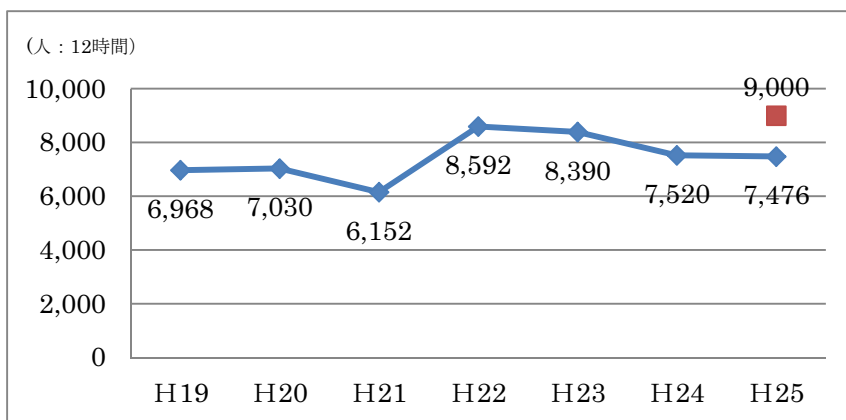
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「人々の交流によるにぎわいの回復」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P47～P54 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H19	7,000 (基準値)
H20	7,030
H21	6,152
H22	8,592
H23	8,390
H24	7,520
H25	7,476
H25	9,000 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査実施：毎年10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日4地点（駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目）

○各地点における歩行者通行量（1日当り：12時間・自転車含む） 単位：人

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
駅前中央通り	3,300	3,196	2,302	3,704	3,556	3,278	3,284
りんご並木	952	1,380	1,438	1,508	1,352	1,210	1,194
知久町1丁目	1,016	774	700	802	600	554	484
銀座3丁目	1,700	1,680	1,712	2,578	2,882	2,48	2,514
合計	6,968	7,030	6,152	8,592	8,390	7,520	7,476

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 商工会館改築事業（飯田商工会議所）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成22年度から平成25年度 【済】
事業概要	商工会館を改築し、商業・一般公衆利便施設、バスストップ、商工会議所、駐車場等の複合拠点として整備する。
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量：121人増（対平成19年比） （最新値）歩行者通行量：282人増（対平成19年比） ※知久町1丁目・銀座3丁目
達成状況	目標を達成した。

達成した（出来なかった）理由	平成 26 年 2 月供用開始のため今回の指標には直接影響しないと思われる。増加の要因はりんご並木を中心とした企画イベント等により、中心市街地を訪れる人が恒常的に増え、まちなかを回遊している人が増加したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	同会館は、地域産業振興の拠点であり、市民交流の場、バスストップ及び駐車場の設置による交通の利便性確保や環境配慮等による維持経費軽減とグレードアップを図ることにより、周辺商店街をはじめ中心市街地全体の賑わい再生に向けた波及効果を期待。
商工会館改修事業の今後について	実施済み

② 駅周辺及び駅前ストリート整備事業（飯田市、飯田観光協会、JR 東海）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	交通の結節点である飯田駅における都市サービス機能の充実を図るため、駅周辺及び駅前ストリートの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 165 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 16 人減（対 平成 19 年比） ※駅前中央通り
達成状況	目標を達成出来なかった。
達成した（出来なかった）理由	飯田駅周辺の店舗など誘客施設の整備が予定通りには進まなかったため、目標数値を達成するには至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度、飯田市と飯田観光協会が主体となり、観光ハイサービスの拠点として、また、商店街等の情報発信の拠点として、さらには各種交流のできる場として飯田駅構内に飯田駅前観光案内所「結の駅」を開設した。観光客、来街者への情報提供はもちろんのこと、まち歩きのサポート、レンタサイクルの貸出、地場製品の紹介コーナーなど、新たなサービスと交流サロンの機能も取り入れた拠点として整備した。開設以来年間 3 万件程度の案内・対応案件があった。
駅周辺及び駅前ストリート整備事業の今後について	バスや JR の利用拡大に努めるとともに、リニア中央新幹線駅設置を見据え、リニア時代に対応した総合的な交通戦略に基づく事業展開を行う。

③ りんご並木周辺商業施設等整備事業（株式会社飯田まちづくりカンパニー）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、不動産の所有と利用の分離によるテナントミックスの実施によってりんご並木の活性化を図るために、りんご並木周辺の空店舗等を、中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 1,440 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 242 人増（対 平成 19 年比） ※りんご並木
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	テナントミックス事業等の効果による歩行者数の増加
計画終了後の状況（事業効果）	平成 20 年度にはスケジュール通り 3 店舗がオープンし、市民からりんご並木の新たなスポットとして認知が得られ、中心市街地に新たな客層を獲得し始め、平成 22 年度には、意欲ある民間事業者により、りんご並木に新たな店舗・サービスを 4 店舗整備。平成 24 年度以降新たな整備計画に着手している。この事業では、市民の心のシンボルとなっているりんご並木に、域産域消など当地域ならではの魅力をテーマとした複数の店舗を配置した。その結果、まちなみを彩り、ライフスタイルを豊かにするという新たな市民ニーズを創り出すことにつながった。
りんご並木周辺商業施設等整備事業の今後について	今後も継続して実施する。

④ 人形劇のまちづくり推進事業（NPO いいだ応援ネットイデア）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	人形劇をテーマとした国際・フィギュア・マーケット等のイベント実施をはじめとする官民一体のまちづくりの推進
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 300 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 524 人増（対 平成 19 年比） ※りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目

達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	りんご並木を中心として、様々な団体による創意工夫に富んだ企画が毎月実施され、恒常的にまちなかを回遊している人が増加。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 19 年度から川本喜八郎人形美術館周辺でスタートしたインターナショナル・フィギュア・マーケットは、中高生ら若者の心をとらえ、飯田 丘のまちフェスティバルに発展した。例年 11 月 3 日に屋外で開催する。近年は、フィギュア（人形）に加え、多様な主体の参画によりコスプレ、痛車などの企画も加わり、来場者も増加傾向にある。この取り組みは、かつての飯田の中心市街地が備えていた「ハレの日・ハレの場」の賑わいを多様な主体の取り組みによって現代に再生するものであることから、継続実施していく。 飯田 丘のまちフェスティバル（来場者数） 平成 20 年度 20,000 人 平成 21 年度 20,000 人 平成 22 年度 30,000 人 平成 23 年度 30,000 人 平成 24 年度 30,000 人 平成 25 年度 30,000 人 計 160,000 人
人形劇のまちづくり事業の今後について	今後も継続して実施する。

⑤ まちなか観光活性化事業（飯田観光協会）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	現存する中心市街地の観光資源を十分に活かしつつ、商業者による観光資源開発、街角観光案内拠点整備、宿泊拠点での観光案内や人形劇場やコンベンション施設整備等による観光産業の活性化事業
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 300 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 524 人増（対 平成 19 年比）※④再掲
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	りんご並木を始めとするまちなか観光や、定期的なまちなかイベントの実施により、恒常的に回遊する人が増加。
計画終了後の状況（事業効果）	観光ボランティアガイドによる観光施設案内を実施している（平成 24 年度実績で約 1,115 人を案内）。平成 23 年度からは市民団体が主体的に観光資源の洗い出しを行い、マップ製作に着手。テーマ別に女性の目線や地域ならではの情報にこだわった情報を掲載し、観光案内施設

	や宿泊施設等での活用から回遊性の促進を図った。
まちなか観光活性化事業の今後について	今後も継続して実施する。

⑥ 観光資源開発とネットワーク事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 21 年度から平成 24 年度 【済】
事業概要	まちなかに点在する施設や、資産を観光資源として開発・整備するとともに、南信州観光公社と一体となった商品企画開発をはじめ語り部の育成やツアー企画、食事ガイドマップ等のマップ、ホームページ作成等による情報発信、まちなか散策、スタンプラリー、ウォーキング等、さらには、レンタサイクル・馬車・ベロタクシー等の移動手段の確立等について、一体的なネットワーク化を図る
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 300 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 524 人増（対 平成 19 年比）※④再掲
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	りんご並木を始めとするまちなか観光や、定期的なまちなかイベントの実施により、恒常的に回遊する人が増加。
計画終了後の状況（事業効果）	イベントや食事ガイドなどの中心市街地情報をホームページ、及びマップを活用し「まちなか観光情報」として情報発信を行った。
観光資源開発とネットワーク事業の今後について	実施済み

⑦ りんご並木賑わいづくり事業（事業（飯田市、飯田まちづくりカンパニー）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	りんご並木周辺における文化的イベントや農産物直売市等の商業的イベントを実施するとともに、魅力資源発掘、マップ作成や情報発信等を推進する。
目標値・最新値	（目標値）歩行者通行量： 300 人増（対 平成 19 年比） （最新値）歩行者通行量： 524 人増（対 平成 19 年比）※④再掲
達成状況	目標を達成した。

達成した（出来なかった）理由	りんご並木を始めとするまちなか観光や、定期的なまちなかイベントの実施により、恒常的に回遊する人が増加。
計画終了後の状況（事業効果）	<p>りんご並木まちづくりネットワークが平成 20 年 4 月に発足し、毎月連絡会議を開催しながら、りんご並木歩行者天国を 4 月から 11 月の毎月 1 回実施した。歩行者天国内のイベントについては、地域のまちづくり委員会や連合青壮年会、NPO、各実行委員会等約 30 団体に及ぶ多様な主体が主催し同ネットワークの構成メンバーが協働して取り組んだ。その結果、平成 20 年度から平成 26 年度の 6 年間で、延べ 29 万人の来場があった。</p> <p>りんご並木歩行者天国（年間来場者数）</p> <p>平成 20 年度 16,400 人 平成 21 年度 43,700 人 平成 22 年度 83,000 人 平成 23 年度 38,600 人 平成 24 年度 48,700 人 平成 25 年度 61,600 人 ※10/12 獅子舞フェスティバルは雨天中止 計 292,000 人</p> <p>魅力資源発掘、マップ作成については、多様な主体の参画により、地域資源の詳細な調査に基づき、4 種類のマップ作成を行い、約 5 万部を配布し、観光客等から好評を得た。</p> <p>引き続き、新たな主体も交え創意工夫に富んだ事業を継続する。</p>
りんご並木賑わいづくり事業の今後について	今後も継続して実施する。

⑧ まちなか健康福祉拠点整備事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 21 年度 【済】
事業概要	健康の駅構想とともに、市民の健康寿命延伸のため、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のための活動拠点整備事業
目標値・最新値	<p>（目標値）歩行者通行量： 50 人増（対 平成 19 年比）</p> <p>（最新値）歩行者通行量： 282 人増（対 平成 19 年比）</p> <p>※知久町 1 丁目・銀座 3 丁目</p>
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	まちなか健康関連サービス施設利用者の増加による。
計画終了後の状況	平成 19 年 11 月に健康関連サービスが開始、平成 21 年度には、保健・

況（事業効果）	医療・福祉・介護予防マネジメント等を総合的に行う拠点の整備が完了、平成 22 年度から福祉関連サービスを開始した。計画期間内に段階的に事業に取り組んだことで、利用者の拡大につながった。
まちなか健康福祉拠点整備事業の今後について	実施済み

3. 今後について

リニア中央新幹線開通後に、大都市圏と近接交流するであろう都市構造の変化を想定する中で、多様化し高度化する消費・文化ニーズに対応した都市サービス機能を充実させ、まちなかの交流を生み出す。そのため、高い専門性と日常生活に密着した多様な商業機能、文化的・歴史的資源を十分に活かした文化的機能、憩いの場の整備やイベント、観光資源開発等を通じた交流機能、さらには、社会ニーズに対応した生活支援サービス等による業務機能などの拠点づくりを行う。

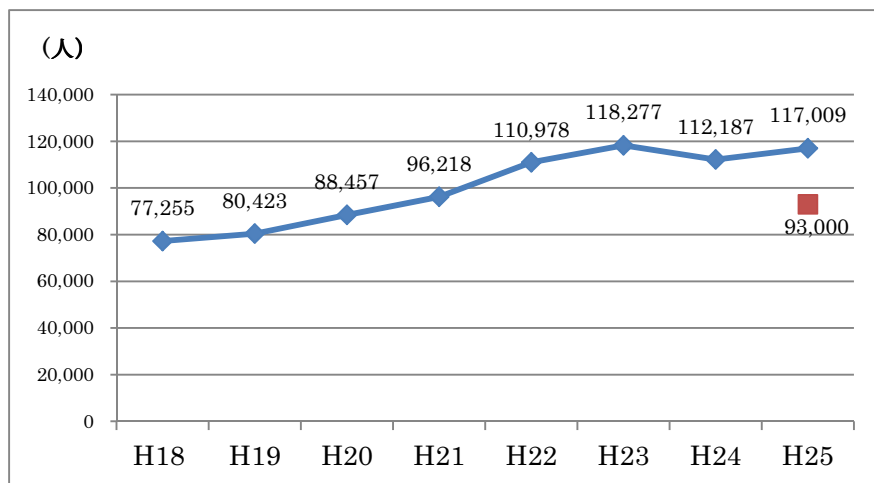
具体的には、「駅周辺及び駅前ストリートの整備事業」として、店舗等誘客施設により様々な交流を促し、アクセスしやすく集客しやすい環境づくりを行う。「りんご並木周辺商業施設等整備事業」でりんご並木周辺におけるテナントミックスや空店舗活用による商業施設等の整備を行い、新たな客層の開拓を図る。また、「りんご並木賑わいづくり事業」において、これまでに整備されている商業施設、扇町公園（動物園）等との回遊性をさらに促進すべく、イベントの同時開催、商業者との連携協働を強化し、継続実施する。「人形劇のまちづくり事業」は多様な主体の力のさらなる集約・集中化を図り、他地域からの来街者を呼び込む。「まちなか観光活性化事業」では、観光協会や観光事業者・商業者による観光資源開発、誘客情報受発信機能の充実、観光ガイドの活動強化等により、まちなかの回遊性を創出する。「観光資源開発とネットワーク化事業」では、まちなかの資源を一体的に利活用するために、観光資源としてネットワーク化を図ることにより、まちなかの回遊性を創出する。さらには、中心市街地における交通面から見た課題に対応するため、安全で快適な移動を可能とする道路整備やバス等公共交通の充実が必要である。

個別目標

目標「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」

「都市福利施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P58 参照

2. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	77,000 (基準値)
H19	80,423
H20	88,457
H21	96,218
H22	110,978
H23	118,277
H24	112,187
H25	117,009
H25	93,000 (目標値)

※調査方法：各施設管理者からの聞き取り

※調査実施：平成 26 年 3 月末時点調査、4 月取りまとめ

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市公民館、りんご庁舎、おしゃべりサラダ、まちなか健康福祉拠点（銀座掘端ビル）

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
飯田市公民館	55,997	54,256	49,344	56,202	63,716	63,785	52,731	62,301
りんご庁舎	20,179	20,757	24,990	21,395	19,788	21,794	20,640	16,774
おしゃべりサラダ	1,079	1,574	2,205	2,011	4,053	3,416	4,960	4,154
健康関連サービス	—	3,836	11,918	16,610	23,421	29,282	33,856	33,780
合計	77,255	80,423	88,457	96,218	110,978	118,277	112,187	117,009

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①まちなか健康福祉拠点整備事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 21 年度 【済】
事業概要	健康の駅構想とともに、市民の健康寿命延伸のため、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のための活動拠点整備事業
目標値・最新値	(目標値) 年間利用者数： 18,000 人増 (対 平成 19 年比) (最新値) 年間利用者数： 29,944 人増 (対 平成 19 年比)
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	健康関連施設が複合的に整備され、利益性が高まり効果が発揮された。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 19 年 11 月に健康関連サービスが開始、平成 21 年度には、保健・医療・福祉・介護予防マネジメント等を総合的に行う拠点の整備が完了、平成 22 年度から福祉関連サービスを開始した。計画期間内に段階的に事業に取り組んだことで、利用者の拡大につながった。

まちなか健康福祉拠点整備事業の今後について	各種サービスは継続して実施していく。
-----------------------	--------------------

②子育て・子どもサロン等の拠点整備事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	子育て支援の中核をなす拠点センターの設置計画及び整備推進
目標値・最新値	(目標値) 年間利用者数： 1,000 人 (最新値) 年間利用者数： 4,154 人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	継続的な取り組みにより、活動が認知されてきている。
計画終了後の状況（事業効果）	先行しているおしゃべりサラダの活動運営に対し、活動場所の貸出や運営補助などの側面的な支援を行っている。引き続き、おしゃべりサラダの活動の分析や市民ニーズを把握する中、都市機能としての子育てサロンのあり方等について官民協働により検討し、機能強化を図っていく。
子育て・子どもサロン等の拠点整備事業の今後について	今後も継続して実施する。

③コミュニティ形成・公共施設機能強化事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	平成 20 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	地域の福祉、文化、コミュニティの再構築に向けた取り組み等を行える空間として、図書館で読書を通して個の力を高め、公民館及びりんご庁舎で人々が集い協働で暮らし（広い意味での福祉）の課題を学ぶコミュニティ講座等を実施し、市民の文化的な満足を高めることにより、公共施設の機能的、施設的な強化を図る
目標値・最新値	(目標値) りんご庁舎利用者数： 360 人増（対 平成 19 年比） (最新値) りんご庁舎利用者数： 3,983 人減（対 平成 19 年比）
達成状況	目標を達成出来なかった。
達成した（出来なかった）理由	最終年度に限ってみれば著しく減少したが、全般としては安定利用されている。大イベント等が天候等により中止となったことが影響していると思われる。
計画終了後の状況（事業効果）	従来から行なわれていた、図書館、公民館での各種講座に加え、りんご庁舎等を活用した、文化講座やまちづくりNPOなどによるコミュニティ講座の継続的開催が、都市福利施設の利用者数の増加に寄与した。
コミュニティ形成・公共施設機能強化事業の今後について	今後も継続して実施する。

④生涯学習センターの設置・運営事業（飯田市）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成 21 年度から平成 25 年度 【実施中】
事業概要	公民館への「生涯学習センター」の設置・運営事業
目標値・最新値	(目標値) 飯田市公民館利用者数： 240 人増 (対 平成 19 年比) (最新値) 飯田市公民館利用者数： 8,045 人増 (対 平成 19 年比)
達成状況	目標は達成した。
達成した（出来なかった）理由	「生涯学習センター」の設置ではなく、公民館の活動促進・機能強化に努めてきた。
計画終了後の状況（事業効果）	生涯学習機関としての公民館が周知され、多くの市民に日々利用されている。
生涯学習センターの設置・運営事業の今後について	市の財政状況から、先送りされている既存公民館改修計画が立ちあがった時期にあわせて再検討。

3. 今後について

これまでのまちづくりを通じて取り組んできた都市型住宅や高齢者向け住宅供給を継続して実施するとともに、人の暮らしの視点から、高齢化、少子化等による人口減少時代の新たな社会ニーズに対応した社会サービスを提供する。また、飯田市において重要な政策である環境配慮型まちづくりの推進を、中心市街地において市域全域の先導として実施することにより、環境に配慮した、安心安全な暮らしを実現する。

社会サービスとしては、「まちなか健康福祉拠点活用事業」において、健康・福祉をテーマとして、高齢者を中心に健康・フィットネス教室等をこれまで以上に積極的に取り組む。また、「りんご庁舎再整備事業」では、新たなニーズに対応した子育て支援、それぞれのライフスタイルに合わせた健康増進策やコミュニティ形成の実施とその拠点整備を進める。「旧飯田測候所活用事業」においては、地域の観測所として機能してきた歴史性を活かし、環境教育や社会教育の場、コミュニティ創出・強化の場として利活用し、都市福利のさらなる充実を図る。

「環境配慮型まちづくり事業」を推進するとともに、「まちなか住宅開発事業」では、中心市街地における再生可能エネルギーの活用を考慮した環境共生型住宅整備等を促進し、まちなか居住支援を推進する。

さらに、歴史的建造物など歴史的文化的資源等の再整備や利活用を市民参画のもとに推進する既存ストックの活用を進めることで環境に配慮した資源の有効活用を推進する。